釧路南ロータリークラブ会報

第 40 回　例 会 報 告　2014.5.2　通算 1535 回

・点　　　　鐘　　　　　佐藤玄史会長

・ロータリーソング

「君が代」「奉仕の理想」「四つのテスト」

ソングリーダー　山本　美穂会員

・会　長　挨　拶

こんにちは､5月に入りちょうど黄金週間にはいり日差しも変わってきました｡普段仕事人間は少し海や､山へ出掛けることも必要かと思われます。あわせて家族サービスも､ただ少し気になることがあります。最近、近所の5月の風物詩の”鯉のぼり“がめっきり見えなく感じます。時代の流れなのかな、少子化の影響なのかな、少し複雑な気持ちになります。

さて、今日の例会のプログラム、“未来の夢計画”ですけど、漠然としてますけど我々「ロータリー奉仕活動」の一環としての取り組みで、クラブ単体、7分区、2500地区でのそれぞれの役割があると思います。例会の中で、少し議論ができればと考えております。尚、5月例会は、例年移動例会が多くありますので間違えのないよう注意してください。以上挨拶といたします。

・幹　事　報　告

* 釧路東・釧路西・釧路北・釧路ベイ・弟子屈各ロータリークラブ並びに、釧路北ローターアクトクラブより５月の例会プログラムと厚岸・弟子屈各ロータリークラブ並びに、釧路北ローターアクトクラブより４月のクラブ会報を拝受しております。
* 四半期に１度発行され、本日の例会プログラムにも関係があります「ロータリー寄付推進＆補助金ニュース」がロータリー合同事務所よりメールで来ております、リソース＆参考資料にアクセスできますので、必要な方はメール転送しますので、幹事までご連絡ください。
* 先日４月 19 日､20 日帯広での 2014－15 年度　国際ロータリー第 2500 地区ＰＥＴＳ／地区研修・協議会　出席のお礼が奥　周盛ガバナーエレクト・後藤裕弘実行委員長名で届いております。

以上は回覧板に載せてあります。

* ロータリー情報メディア委員会よりご案内が行っております、来月５月９日（金）１２時３０分より当ホテルに於いての、ゲストスピーチ並びに釧路ＲＣと釧路ベイＲＣの会員来訪例会出欠確認が本日締め切りになっております、ＦＡＸ先の合同事務所は４時で締りますので忘れています会員の皆様、出来ましたら３時頃までにＦＡＸをお願います。
* 明日から連休に入りまして､第３週５月 17 日(土)の花見移動例会の出欠確認が短い期間での締め切りに成ると思いますが会員の皆様、５ 月例会プログラムを確認して例会日程の把握を願いします。

･本日のプログラム

「　未来の夢計画について　」

担当　会長･幹事

◆佐藤　了幹事

先日、私も参加しました帯広で開催されました地区協議会の活動計画書の中、国際ロータリー第２５００地区　ロータリー財団委員会小船井　修一委員長の文章で「３年間の試験期間を終え「未来の夢計画 (Future Vision)」が２０１３－１４年度から全世界５３７地区で一斉導入となりロータリー財団の創設以来､初めての大規模な改革が実施されました」との事で掲載されていましたが、同時に、掛け声とは裏腹に、次々と見つかる基本的な制度設計の不備や、当クラブ福井第２５００地区ＶＴＴチームリーダーが一丸となり歯科部門に世界で最初のグローバル補助金の申請認可を得るという大仕事を成し遂げましたが、コンピュータシステムの単純な未整備等が重なり、世界各地で様々な問題点が浮き彫りになった１年間であったとも書かれております。　私自身、福井会員より申請時のコンピュータ操作等で、何度もやり取りを繰り返す作業が続き不整脈になったとのお話を聞きました。

私が当クラブに入会した頃、ロータリーの事を何も知らないせいでもありますが､｢未来の夢計画｣という事をほとんど見聞きして居ませんでした、次年度幹事とご指名され財団セミナーや補助金管理セミナーまたＰＥＴＳ／地区協議会に参加するよう成って多く見聞きする様になった次第です。

ではここで「未来の夢計画」のこれまで調べた経緯をご報告します。初めに

■なぜ「未来の夢計画」が必要だったのか

来る西暦 2017 年のロータリー財団創立 100 周年に向け、ロータリアンのニーズに応えながら、慈善事業分野において財団が時代に即した存在であり続けるため、進化を遂げるべき時が来たと管理委員会と理事会は感じ、2005 年 2 月、全世界のロータリアンからの意見を基に、管理委員会は財団の未来の長期計画となる「未来の夢計画」を開始することになりました。

１、ロータリー財団の第 2 世紀に備える
２、財団の飛躍的な成長
３、慈善分野において時代に即した存在となる
４、発展し続ける組織
５、ロータリアンからのフィードバック
６、持続可能性、大きな成果、簡素化

と以上のように意見をまとめました。

■未来の夢計画の目標は

その上で、調査やフォーカスグループ（座談会)に参加した世界中の何千人というロータリアンからの意見を基に、以下の通り、未来の夢計画の目標が定められました。

１、財団のプログラムと運営を簡素化する
２、全世界的な影響を高める活動に、ロータリアンの奉仕の焦点を絞る
３、全世界および地元での活動を支援する
４、地区レベルとクラブレベルにおいて財団が自分たちのものであるという自覚を高める
5､ロータリーの公共イメージを高める　　　次に、

■新しい補助金のための重点分野について
ロータリー財団管理委員会は、新しい補助金のために 6 つの重点分野を定めました。これらの分野は、ロータリアンが既に世界中で取り組んでいる重要な人道的問題とニーズを反映しています。また、これらの分野は、ロータリーの活動をほかの国際的な開発活動と一致させることによって、財団の使命を長期的に助長するものです。各分野には、それぞれ関連した具体的目標が定められています。管理委員会は、少なくともこれから 9 年間は、これらの重点分野に取り組み続けることを決めました。このため、管理委員会は、未来の夢計画のロータリー世界全体への導入に先立ち、試験地区ではない地区も、財団プログラムの活動をこれら 6 つの分野に関連づけて行っていくよう奨励しています。

１、平和と紛争予防、紛争解決
２、疾病予防と治療
３、水と衛生設備
４、母子の健康
５、基本的教育と識字率向上
６、経済と地域社会の発展

■新しい補助金モデル
補助金の手続きを簡素化するため、未来の夢計画では新地区補助金とグローバル補助金の 2 種類のみとしました。未来の夢計画の新しい補助金モデルは、クラブと地区が、持続可能なプロジェクトに資金を最大限に活用し、大きな成果をもたらすことができるようにすることを目的としており、これによって財団への寄付を最も実りあるかたちで生かすことを目指しています。

◎２種類の内の１つ目、地区補助金（当初は新地区補助金となっていました）
ロータリー財団の使命全般を支援するものですが、必ずしも６つの重点分野と関連している必要はなく、クラブと地区には幅広い選択肢が与えられています。地区は、補助金の活用を希望するロータリアンとクラブからの資金要請を検討した上で、利用可能な地区活動資金（DDF）の 50％までを、1 年度に１ 口、「一括」で地区補助金として財団に申請することができます。その後、地区はその資金をプロジェクトや活動に配分し、その使途を地区内全クラブに報告します。クラブと地区は、申請前に使用計画を立てるため、補助金受領後に財団に提出すべき報告書は最小限となり、これによって、地区が補助金を迅速に終了することが可能になります。　「地区補助金は、地元や海外での小規模な活動やプロジェクトへの利用のために意図されたものです。」

◎地区補助金の活動例
新地区補助金の第１号は、タイの第 3330 地区に支給されました。この地区は、学校のための本、パソコン、スポーツ用品を購入したり、生徒たちにきれいな水を提供したり、病院ベッドを寄贈するなど、さまざまなプロジェクトを、この新地区補助金で支援しています。

◎新地区補助金が利用できる例
さまざまな職業に携わる人々から成る職業研修チーム（ＶＴＴ・当時はＧＳＥ）を他地区と交換する。
医師が海外へ赴き、診療所でボランティア活動を支援する。
地元や海外の大学に留学するための奨学金を提供する。
青少年のための放課後プログラムに美術道具を寄贈する。

◎２種類の内２つ目、グローバル補助金：これは申請金額もかなり大きくパッケージ・グランドも含め大きな制約がありますが持続と測定が可能で、重点分野の目標と関連したプロジェクトや活動に利用するものです。こうした目標を支えるため、グローバル補助金では、プロジェクトや活動の費用は高額となり、WF（国際財団活動資金）から上乗せされる金額の下限は 15,000 ドルです。つまり、プロジェクトの合計費用は、30,000 米ドル以上となります。クラブと地区は、独自のグローバル補助金プロジェクトを立案するか、協力組織と合同で財団が立案したパッケージ・グラントの中から選ぶことができます。未来の夢試験段階の開始当初は、パッケージ・グラントの選択項目が少ないと予想されましたが、時が経つにつれ、項目は増えていくと予想もされています。グローバル補助金は、WF（国際財団活動資金）からの上乗せ（組み合わせ）があります。また、重点分野の目標と関連している限り、活動内容に関する規則は特に設けられておらず、柔軟性があり、

奨学金の選択肢としても経済的です。さらに、重点分野に関連する限り、クラブ同士が協同して、1 口の補助金で人道的活動と教育的活動を組み合わせた総合的なプロジェクトを実施することもできます。

◎承認されたグローバル補助金の第 1 号は、インドネシアにおけるデング熱撲滅プロジェクトの支援です。インドネシア、第 3400 地区のソロ・カルティニ・ロータリー・クラブと、米国、第 7980 地区のウェストポート・ロータリー・クラブが協力し、デング熱の感染率を下げるため、水貯水用タブに白いセラミックのタイルを敷き、(感染の媒体となる) 蚊の発生の減らし方を地域社会の人々に教える活動を行う。

◎グローバル補助金は重点分野に取り組まなければいけない。

◎プロジェクトの計画において持続可能性と測定可能性を重視すること。

◎グローバル補助金の活動例

地域社会に安全な飲み水（掘削孔）と衛生設備（簡易トイレ）を提供するとともに、衛生教育とメンテナンス研修を行う。

水管理専攻または保健専攻の修士課程に留学する奨学生を派遣する。

マラリア蔓延地域に防虫加工の蚊帳を配布し、マラリアを治療し、予防に関する教育を行う。

成人の識字教育に関するワークショップに参加したり、指導方法を学ぶ目的で、職業研修チーム（ＶＴＴ）を海外に派遣する。

■受領資格

新しい補助金構成の下では、クラブと地区は、ロータリー財団による資格認定を受けなければなりません。財団では、初めて地区補助金かグローバル補助金を申請する前に、地区に行っていただく簡単な資格手続きを設けています。資格は、3 年ごとに更新する必要があります。グローバル補助金の利用を考えているクラブは、地区による資格認定を受けなければなりません。これは複雑な手続きではなく、世界中の地区が最低基準を満たす簡単な手続きです。財団のプロジェクトや活動を効果的に実施するため、クラブの参加の同意、地区指導者の研修、委員会の設置、手順の確立、といった基準が盛り込まれています。

■リソース（リソースとは、目的を達するために役立つあるいは必要となる要素、資源という意味もあります。）

当時、新しい補助金構成において試験クラブと試験地区が参考にできる豊富な資料が用意されました。情報や指針を得る上で最も役立つリソースを、次に 3 つご紹介します。未来の夢研修に関する最新の資料はすべて、RI ウェブサイトからダウンロードできます。

・RI のウェブサイト（www.rotary.org/ja）
　未来の夢試験段階のニュースレター
　未来の夢に関する E ラーニングのモジュール
　補助金の授与と受諾の条件
・未来の夢試験段階の運営担当職員
　連絡担当職員のリストは RI ウェブサイトに掲載
・地区指導者
　ガバナーエレクト、地区ロータリー財団委員長、地区補助金小委員会委員長

■未来の夢計画について知っておくべきポイントトップ 5

１、未来の夢計画は、補助金手続きを簡素化すると同時に、長期にわたって大きな成果が期待でき、一般の人々から広く認められるようなプロジェクトにリソースを提供するものです。これにより、財団は、世界で最も切迫したニーズに効果的に取り組めるようになります。

2、未来の夢計画は、各地域社会でロータリアンが特定したニーズに応えるものです。これは、プログラム中心のモデルから脱するという「思考の転換」を表しています。制約の少ない新しい補助金モデルにより、ロータリアンは、より柔軟に画期的なプロジェクトが実施できるようになります。

3、未来の夢計画は、地区だけのものではありません。クラブと地区が立案するグローバル補助金では、クラブが新規のプロジェクトや活動を柔軟に計画することもできます。さらに、クラブがプロジェクトを実施する際には、グローバル補助金のパッケージ・グラントを利用したり、地区と協力して新地区補助金の資金を利用することもできます。

4、未来の夢計画は、奨学金にも最適であり、さまざまなオプションを奨学生に提供します。クラブと地区が地元や海外の学生のために奨学金を授与し、奨学生は、この資金を学位の取得に充て、かつ大学も自由に選ぶことができます。申請手続きにかかる時間が短縮されるため、留学の手配を行う奨学生のニーズにもより良く応えることができます。
5、未来の夢計画は、オンラインの申請手続きを採用しています。テクノロジーを利用したこの方法により、書類による申請手続きがカットされます。補助金に関する情報や署名がオンライン上で提出できるため、申請にかかる時間が大幅にカットされます。

■未来の夢計画の準備期間
● 2010-11 年度　柴田　和明ガバナー年度は、準備の初年度。先ずは「未来の夢計画」の概要を理解して頂くために、あらゆる機会を利用して普及活動に努める年度でした。各クラブの財団活動及び奉仕プロジェクトに対する方向性の検討を実施する。当年度の財団寄付が３年後の 2013-14 年度、つまり未来の夢計画実施初年度の地区活動資金(DDF) となります。未来の夢計画初年度の予算は柴田ガバナー年度の寄付で決まりました。

● 2011-12 年度　増田　一雄ガバナー年度は、未来の夢計画の具体的な準備期間。地区およびクラブの財団委員会が中心となり、地区補助金とグローバル補助金の活用に対する方針を決定し、具体的な奉仕プログラムについて５W3H で計画を立てています。従いまして事前に、どの地域でどのようなニーズがあるのかの事前調査と概算の予算計画を立てる必要がありした。そのためにも今期中にロータリー財団の「未来の夢計画」について全員が把握しておかなければならないと計画されておりました。

● 2012-13 年度　桜田　正弘ガバナー年度は、未来の夢計画実施の前年度ですから、事実上スタートと同じです。地区主導の計画案（提案書）と各クラブの計画案（提案書）を地区財団委員会が調整し、事業仕訳をして絞込み、予算調整をし、この調整を経て、地区としての地区補助金とグローバル補助金を活用した事業計画方針が決定となりました。グローバル補助金は財団管理委員会(TRF) に申請の手続きに入ります。ただし、補助金申請には、資格審査があります。

● 2013-2014 年度　葭本　正美ガバナーのもと、本番実施年度　奉仕プロジェクトのプログラムが実行されます。地区補助金は実施年度内に終了することが原則です。終了次第結果報告をするとともに、計画通りに目的が達成されたか？受益者及び関係者の意見をまとめて評価測定を行い、良否の評価とともに、今後の参考のために、反省点を記録に残す。グローバル補助金のプログラムは、複数年に亘りますのでプロセス評価の報告書が今年度終了後提出されます。

新年度も間もなくスタートします、財団のプログラムが簡素化されたと言われますが今後も財団管理セミナーへの会員１人以上の絶対参加や覚書（memorandum of understanding　省略形　ＭＯＵ）の提出等作業はありますが、葭本ガバナー年度目標にした「各会員、年間１００ドルの目標」とともに、１年間の会員皆様が行う年次・恒久基金・ポリオプラス・大口寄付などの善意からの財団寄付が国際ロータリーを通じ世界の奉仕活動に役立ち３年後、５０％が地区に補助金としてまた事業奉仕活動の申請により当クラブにも還元され、その源資によりクラブの活性化が図られる様に、今後も新しい奉仕活動の在り方や財団の勉強会・他クラブの活動等を通して学んで行きたいと思います。これこそが「未来の夢計画」の狙いと私は思います。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

・次回のプログラム

５月９日（金）

「 ゲスト講話並びに来訪ロータリアン参加例会 」

会場　釧路東急イン　12:30～

担当：ロータリー情報メディア委員会

・点　　　鐘　佐藤玄史会長

今週の会報担当：上川原昭会員